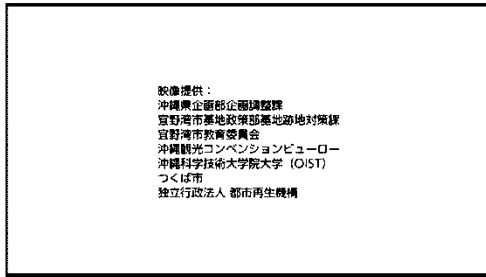
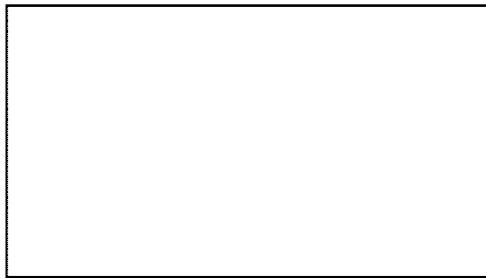




73



74



75

2. イベント等での広報活動及び意見聴取

(1) PRキャラバンでの市民意見

項目	意見	年齢
①「緑を活かす」 について	・緑は多い方が良い	10代以下
	・ぼくはあさちにひろいろてんぶろをつかってほしいです きもちいいからです。(僕は空地に広い露天風呂を作してほしいです)	10代以下
	・自然公園を作ってアトラクションとかあっても良い。	10代以下
	・ひろば、こうえんをふやしてほしい。(広場、公園を増やしてほしい。)	10代以下
	・きちのあとちに、ゆうえんちを作してほしいです。(基地の跡地に、遊園地を作してほしいです。)	10代以下
	・基地内の緑は、可能な限り残してほしい。(那覇市 38歳 男性)	20代、30代
	・普天間の街道並木道を、もう一度再現してほしいですね。	40代、50代
	・出来るだけ緑を残した街づくりしてほしい。(42歳 会社員)	40代、50代
	・緑の多い公園をつくり、多くの人達が憩える場所にしてもらいたい。天久新都心のような街づくりにはほしくない。(40歳 会社員)	40代、50代
	・基地内には、緑が多く残っている所があると思います。(基地が)帰ってきたら大切にしてほしいです。遺跡も同様、保護が第一です。宜野湾市が自慢できる遺跡、ぜひ残してもらいたいです。緑はもちろんです。	40代、50代
	・地域の人々が気軽に集まれる広場と普小(普天間小)の近くに児童館をつくってほしい。	40代、50代
	・今あるとても大切な自然をつぶさないで！！(59歳 男性)	40代、50代
	・既存の緑地部分は、絶対に残すこと！！(60代 地権者)	60代以上
	・緑豊かな公園を作してほしい。	60代以上
・緑でマラソン・ジョギング・ウォーキング1周コース	60代以上	
・住宅地が少ないのに自然ばかりうたっても発展しない。だいたい沖縄県民は公園もきれいに維持していけなさそう	60代以上	
②「歴史や 文化を活かす」 について	・宜野湾市は緑の市としての街づくりがこれからも大切だと思います。	40代、50代
	・文化や緑が、今現在、どのように使われているかが、わからないので、意見のしようない。(70代 男性)	60代以上
	・基地に(土地は)取られ、宜野湾市は、緑も無い。歴史や文化も地中に基地の中！！早く県外(国外)に移設。地産地消、島の野菜を大切にしよう。	60代以上
	・歴史や文化を観光収入につなげてほしい。自分が観光に行くと史跡周りが楽しみだから(60代 女性)	60代以上
③「地形を活かす」 について	・みどりをふやす。	10代以下
	・大山側に眺望を活力とした、ホテル・展望台等を検討して見てはどうか！！(60代)	60代以上

④「水の道を活かす」 について	・洞穴を利用して、水の資源を増やしたり、観光地としていけばいいと思う。(10代 小学生)	10代以下
	・自然を大切に湧き水などしっかり大事にしてもらいたいですね。あまり色々なものを作らず、自然の中で子供達の遊ぶスペース作って欲しい。	20代、30代
	・人間の手で家を建てたり、開発をするだけではなく、虫も水も地球全てが共存できる街づくりを強く希望する。雨水が地面に染み渡り地下に落ち、水が溜まる。そういった自然とともに開発。	60代以上
⑤「町全体が 緑の公園」 について	・とても広い公園があったらいいなー。(3歳 男の子)	10代以下
	・セントラルパークみたいな街になれば素敵だと思います。緑も多く取り入れつつ、オシャレで国際的な都市にしてほしいと思います。	20代、30代
	・大規模な公園は必ず実現して欲しい。(那覇市 38歳 男性)	20代、30代
	・セントラルパークのように都市内に自然があり、県民の憩いの場となるとよい。(浦添市 20代 男性)	20代、30代
	・幼児からお年寄りまで利用できる、大きな公園を作って欲しいです。(宜野湾市 34歳 女性)	20代、30代
	・産業もちろん必要だが、緑・公園・歴史等も大切に開発してほしい。	40代、50代
	・緑や自然・文化を大切にしたい街づくりを希望。	40代、50代
⑥「産業を生み出す」	・環境に配慮した産業がほしい。(50代 女性)	40代、50代
	・ディズニーランドやユニバーサルスタジオ、テーマパークやカジノを建設し、観光客のみが入館できる施設、ホテル等、観光で潤える施設を作って欲しい。	40代、50代
⑦「都市をつくる」 について	・沖縄にディズニーを作してほしい。・動物園を増やして欲しい。	10代以下
	・ぷーるがほしい。ぜんぶただがいい。(プールが欲しい。全部タダ(無料)がいい)	10代以下
	・無かったら、映画館とマンション等を作って。	10代以下
	・モノレールをもっと長く延ばしてほしい。一定の場所からだけでなく、どこに住んでいても、移動を便利にしてほしい。!!(30代 女性)	20代、30代
	・交通機関がとても不便で、車の無い人(子持ちの主婦等)には、とてもつらい。モノレールや電車を!!(38歳 女性)	20代、30代
	・もっとたくさんアミューズメントパークを作って欲しい。モノレールをもっと延ばして欲しい。	20代、30代
	・暴走族が多し、宜野湾市。サーキット等。	20代、30代
・スポーツセンターなど、市民が使える施設がほしい。(50代 女性)	40代、50代	
・宜野湾スカイツリータワー(米軍タンク跡地に)のような建物を建てたり、やはり地形の自然を活かした案で進めなさい!(60代 男性)	60代以上	

⑦「都市をつくる」 について	・沖縄タワーを作って欲しい。	60代以上
	・駐車場の整備、嘉数高台含む。(70代)	60代以上
	・みんなが損しない街づくりを。緑や文化、いろいろ大切にしていけるのもいいけど、そこで損する人が出たらダメ！！ 11号線、いつ出来ますか？一体！？(地主 60代 男性)	60代以上
	・自転車に乗る機会を多く作らせてほしい(環境のためにも)。子供にも自転車のマナーを大人には同時に教えられる。サイクリングで地域を移動。	60代以上
	・出来る位の大きなコースを作って下さい(60代 男性)	60代以上
	・室内プールの充実。	60代以上
⑧「住まいをつくる」 について	・保育園などを子育ての設備がほしい(30代)	20代、30代
	・県内に基地は要らない。戦争はダメ。	60代以上
⑨「交通ネットワーク」 について	・ぎのわんまでモノレールをつないでほしい。	10代以下
	・モノレールつくってほしい(10代 女の子)	10代以下
	・沖縄全体にモノレールをつなげてください。	10代以下
	・まずは不発弾を全て撤去して、地下鉄や電車を作って欲しい。(小学6年生 女子)	10代以下
	・58号線を片側2車線に変えて、真ん中に電車を走らす。(21歳 男性)	20代、30代
	・交通渋滞の解消のため、南北方向の幹線道路が必要。(那覇市 38歳 男性)	20代、30代
	・基地はやめにして、返還して欲しい。モノレールを作って下さい。	20代、30代
	・車が混まない様に便利な道が出来ると良いです。	40代、50代
	・道が出来たら便利になる。(50代 女性)	40代、50代
	・宜野湾市にモノレールをお願いします。	60代以上
	・モノレールを宜野湾市にもつないで。・(宜野湾市)東側が寂れてきたので、筋トレ・プール施設を作って欲しい。	60代以上
	・真栄原から直行で行ける道路が出来るといい。(70代 女性)	60代以上
	・車の渋滞を緩和するため、ゆいレールを延長して下さい。早急に！！	60代以上
	・那覇から名護までモノレールが走るとうれしい。	60代以上
・宜野湾は交通的に良い位置にあるので、モノレールを延ばしてほしい。	60代以上	

⑩その他	・まぶやしょうつくて。(マブヤーショー作って)(3歳 男の子)	10代以下
	・沖縄に有名人が100人来て欲しい。・ディズニーランドがあってほしい。	10代以下
	・キョウリュウジャーが来て欲しいです。・おねがい。いろんなヒーローが来て欲しい。	10代以下
	・沖縄にディズニーランドを作ってほしい！！	10代以下
	・もっと食文化を推した祭りを！	10代以下
	・ディズニーランド作って(6歳 女の子)	10代以下
	・水族館や動物園とかあると良いと思う。本部町まで遠い。(宜野湾市 11歳 小学生)	10代以下
	・沖縄で絶対戦争をしないでほしい。みんなの平和が盗られるから。(小学5年生 男の子)	10代以下
	・遊園地を作って欲しい！(11歳 女の子)	10代以下
	・農業を活性化させる。	20代、30代
	・歴史・文化・健康・学園都市宣言等の方針を打ち出すことが先決。打ち出すことで先に進むが、打ち出してないことで、進めないように思います。	20代、30代
	・子供達が安心して住める街を作ってほしい。遊ぶ場所がほしい。	20代、30代
	・宜野湾市長は選挙前に基地についていろいろ言っていたけど、今は何もしてくれない。	20代、30代
	・早く基地が無くなるといい。	40代、50代
	・カジノ特区、経済特区。補助金に頼らない、経済の自立。	40代、50代
	・市長、もっと動いて！	40代、50代
	・公園・産業・都市・住居のすべてを発展させてほしい！ゆとりのある計画を。	40代、50代
	・(基地跡地を)普天間第二小学校の専用グラウンドにしてください。	40代、50代
	・平和を発信する街・教育。	60代以上
	・農地の拡大、じゃがいも・タマネギなど、県の食料自給率向上(70代 男性)	60代以上
	・目標はどこか！！夢ばかりいつまでも見ててはいかん！！夢は起きたら覚める！！しっかりとした目標を決めてからやってください。(60代 男性)	60代以上
	もうどうにもならないと思う。何度もやりました。「はい、検討します」じゃ、進まない。孫に土地は譲ります。(60代 男性)	60代以上
	・遊園地・テーマパークを使って欲しいです。(60代 女性)	60代以上
	・博物館・美術館など、大人も子供も同時に学べて楽しめる施設を作って欲しい。	60代以上
	・団地を作って欲しい。	60代以上
	・普天間宮後ろの洞窟を公開したらどうか。(70代 男性)	60代以上
・県内に基地は要らない。もちろん辺野古沖にも。	60代以上	

3. コンペ作品の分析

(1) 上位5作品における6基地との関係性と普天間飛行場における提案のポイント

コンペ上位5作品（最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作2点）について、普天間飛行場とその他の返還予定となっている5地区との関係性について、また普天間飛行場については具体的にどのような提案がされているのか、を整理した。

整理に当たっては、先に分類した「自然」「都市」「産業」の3分野と「(仮称) 普天間公園の整備」「旧集落の再生」「並松街道の再生」の観点で整理した。

① 最優秀賞「万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現」

万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現

アジア諸国の重心に位置する沖縄は、かつてより、これら周辺諸国との交易のなかで、世界を相手に自立する精神—万国津梁—を身につけてきました。

21世紀に花開いた「アジアの時代」。沖縄の“固有の文化”、“豊かな自然”、“多彩な人材”を礎に—自立する交流展開の島—として生まれ変わります。

沖繩固有の自然を活かす

「沖繩の風土・伝統文化」の継承

「アジア諸国との交流」を促進

「経済競争力の優位性」を確立

新たな産業・文化を創出する

3つのネットワーク

- 都市ネットワーク
- 交通ネットワーク
- 環境ネットワーク

新しい沖縄の実現にむけた「3つのネットワーク」の構築

アジアの時代をリードする沖縄を実現するため、中南部都市圏の活力と魅力を高める3つのネットワークを構築します

都市ネットワーク

“4つの新都市拠点”を創る

- 各基地跡地の特性を活かし、4つの都市拠点を創出
- 広域行政中核を普天間に集約し、自立する沖縄を象徴（リージョナルコア）
- 地権者ニーズや社会経済情勢を鑑み、計画的かつ柔軟な土地利用計画を推進

交通ネットワーク

LRTを軸に都市拠点を結ぶ

- 沖縄の顔となるLRTを軸にモータリゼーション、都市拠点の相互移動の利便性を高める
- 国道58号線へのLRTの早期実現とゆいレールとの連携強化をめざす
- 最先端テクノロジーによる高頻度運行の実現など、使いやすいLRTの導入
- ライダー輸送の充実により、利用者の利便性が向上

環境ネットワーク

豊かな亜熱帯庭園都市を育む

- 風土に根ざしたサステイナブルな環境のしくみを
- 地域特性を生かした沖縄ならではの緑土の緑の再生
- 新都市の緑地や既存の緑地をLRT沿道の緑化でつなぎ、緑のネットワークを創出
- 沖縄の気候風土に合った、パッシブで自立的なエコ・スマートシティを構築

課題認識

沖縄に対する

経済的な自立の必要性

- 第3次産業中心の産業構造の克服
- 雇用機会の創出と「失業率の改善」
- 付加価値産業の創成と住民所得の向上

中南部都市圏の環境改善

- 自動車依存からの脱却
- 都市圏への一極集中の克服
- 都市による気候変動と都市空間の解消
- 都市内の緑地空間の回復と充実
- エネルギー自給率の向上

沖縄のポテンシャル評価

- 琉球王朝による交易文化
- アジアにおける地理上の重心
- 都市部の広大な基地跡地の活用
- 自然空間と建造物が近接して立ち
- 日本の数少ない人口増加地域

中南部都市圏発展ビジョンの確立と基礎の先行着手

中長期ビジョンを確立し、基地返還を踏まえた交通インフラの先行整備を行い、街を育てていきます。

フェーズ1 計画 推進期	総合的な街づくり計画決定 (中長期ビジョン)
フェーズ2 始動期	第一期交通インフラ完成 (LRT・モーター・道路等諸の整備)
フェーズ3 創成期	基地跡地の都市圏整備 街開き
フェーズ4 発展期	街が再完成
フェーズ5 成熟期	亜熱帯庭園都市として成熟

新しく創出される「都市ネットワーク」

都市圏を形成し、「交通ネットワーク」

基地跡地を基盤とした「環境ネットワーク」

亜熱帯庭園都市エリア

作品提案者名：トラム&グリーン・リンケージ沖縄21

図 3-1 「万国津梁の島 — 新しい沖縄の実現」 提案内容 (1/4)

“4つの新都市拠点”を創る

6つの基地を4つの都市エリアに再編。
新しく生まれる都市と既成市街地が連携した、個性あふれる都市ネットワークを実現します。



沖繩ゲートシティ スポーツ・文化交流 緑豊かなウォーターフロントを開く—那覇港湾

貴重な都心部の水辺空間を活用した沖繩の玄関口“観光交流拠点”と、典武山公園とが連携した“アジアのスポーツ交流拠点”



那覇市街地を快適な水辺都市空間へ

- 水辺エリアと那覇都心部を「緑の軸（国際通り）」と「緑の核（セントラルパークとトランプシットパーク）」でつなぎ、水辺都市として那覇を新たに再生します。

大規模スポーツイベント拠点

- 典武山公園とつながる国際基準の競技場「スポーツパーク」を整備し、アジア諸都市と連携するイベント等、スポーツ・ツーリズムを促進します。(1)
- ポードウォークや緑道広場を整備し、市民の健康増進を支援します。(2)

海辺立地を活かすクリエイション機能

- 潮水遊歩やマリナー、シーフードマーケットを組み込んだ複合観光商業施設を整備します。(3)
- ツーリズムの拠点として、文化・産業・自然を紹介するビクターセンターを整備します。

沖繩リージョナルコア 広域行政・伝統文化交流 新たな沖繩の中心をつくる—普天間

広域行政中枢機能や琉球ナショナルパーク、最先端の研究開発拠点の整備による自立する“沖繩の先導拠点”



島都機能をもつ水と緑の庭園都市

- 広域行政の中枢機能を移転集約し、那覇市への一環集約を改善します。宜野湾市の行政サービス機能も集約します。
- 歴史資産を残し、緑に満ちあふれる都市ゾーニングによって、風格ある都市を醸成すると共に、基地周辺の都市環境の改善につなげます。

郷土の森となる琉球ナショナルパーク

- 沖縄固有の生態系の再生により、琉球時代の史跡の残る大規模森林公園を整備します。(1)
- 自然体験型のテーマパークや琉球文化のオーブリアクト、博物館で沖繩の魅力を発信します。(2)

産業振興ナレッジコア

- 地元大学と連携した国際的研究開発拠点を先導的技術研究拠点を創設し、次世代ビジネスの基礎を築くナレッジコアとします。

沖繩エンターテインメントリゾート 産業・文化交流 アジアを感動と交易で結ぶ—牧港

既設文化施設と連携した“統合型エンターテインメントリゾート”と、“MICE・国際物流拠点”



沖繩のエンターテインメント拠点

- 「国立劇場おきなわ」と最先端のホール等が連携し、自然溢れる統合型リゾートから、新しいエンターテインメントを発信します。
- 新・旧のMICE機能を連携させ、世界レベルのリゾートMICEを整備します。

※MICE: Meeting, Incentive, Convention, Exhibitionの4つのビジネス・セグメントの総称。

24時間対応のシー&エア国際物流拠点

- 機能性の高い空港や埠頭施設と、新設するコンベンション施設が連携し、グローバルなビジネス拠点を形成します。

6つの基地跡地全体のマスタープラン策定 街づくりの基本方針

社会情勢に対する柔軟な土地利用計画 既成市街地と共に新市街地を再編整備

街づくりの考え方 街づくりの考え方

利用目的に応じた手法により計画の街づくりを推進

- 先導プロジェクト用地や公共施設用地は公的セクターが土地先行取得を行い、機動的な街づくりを推進します。
- 資産活用・自己所有等の目的に応じて換地ゾーンを区分します。
- 集約地帯や共同換地により、一定規模の開発街区を創出し、街づくりの社会意によるまとまった開発の誘導を図ります。



基地跡地街づくりとリンクした既成市街地の再編整備

- 密集市街地や自然災害危険区域を“再編リンク”して指定し、地区内施設の基地跡地への移転を促進します。
- 移転後の跡地を、自然再生や再生可能エネルギー等のためのオープンスペースの創出として活用し、既成市街地を再編します。

タウンマネジメントにより環境を維持向上

- 基地跡地の一定単位をベースに、街づくりの初期から、地権者・進出事業者・行政・市民が一体となった組織を創設し、プロモーションや環境の維持向上を図ります。

亜熱帯諸都市の街づくりノウハウをアジア圏に輸出

既成市街地も、公共交通システムと一体化した街づくりの先進的ノウハウを、アジア圏の諸都市整備、再開発に活用します。

図3-2 「万国津梁の島 — 新しい沖繩の実現」提案内容(2/4)

LRTを軸に都市拠点を結ぶ

LRTを軸に交通ネットワークを再構築し、活発な都市間交通を実現。
沖繩の風景を感じる親しみやすい交通システムです。



LRTによる交通網の再構築

- 国道58号を活用してLRTを早期に実現
- 西海岸バイパス開通で通過交通の分散が図られる。国道58号を軸に走行空間を確保し、鉄軌道を低コストに導入します。
- 段階的に公共交通体系を整備します。第1期の相模～牧港の区間(8km)は、基地交通に関わらず早期に整備を完了します。中南部両端に先鞭をつけます。

既存交通体系と連携した直幹ネットワークの構築

- モノレールは直幹(牧港補給基地)と着年間へ延伸してLRTに接続し、高層バスは拠点を短縮します。
- 主要駅にはパーク&ライド拠点を整備します。

急行と各停を組合せて迅速に目的地へ到達



自動車の減少による交通渋滞の解消

バイパス完成により、物流の半数がバイパスに流れ、専用車の約半数がバイパスの3/4がLRTに置き換わると想定すると、朝夕ラッシュ時の1車線当たりの自動車台数は、半減すると予測されます。

軌道整備と運送の分離



都市の発展基盤となるLRTの先行整備(第1期)

第1期/相模～牧港(約8km)の間通により、人口高密度エリアをカバーし、駅周辺を充実させることで、生活を支える地域や施設へのアクセス性を高めます。



LRTが変えるライフスタイル

美ら海の風を感じるLRT
● 沖繩の美しい自然を感じて景色の中を走るLRTは、街並み・景観の再整備、CO₂削減による環境改善など、自動車中心だったライフスタイルからの転換を促します。

- LRTやモノレールを活用して新たな観光拠点づくり**
空道直前のスタイルリッシュな街並みは、観光客だけでなく、地元住民にも人気。LRTやモノレールを活用し、新たな観光拠点を創出。
- 朝の高峰時間帯から開放されて、LRTで快適に通勤**
LRT専用線を確保し、通勤時間帯はLRT専用線に直通。LRT専用線は、LRT専用線に直通し、通勤時間帯はLRT専用線に直通。
- LRTに乗ってコサへ来るリピーターが増えた**
沖繩の特産物を使ったLRT専用線は、LRT専用線に乗ってコサへ来るリピーターが増えた。
- 朝夕のLRT通勤は、友達と一緒に楽しむ**
LRT専用線は、LRT専用線に乗って通勤する友達と一緒に楽しむ。
- 仕事のリタイアしてから家にこもりがちだったが外出が増えた**
LRT専用線は、LRT専用線に乗って通勤する友達と一緒に楽しむ。

新しいLRTの4つの特長

- 新料金システム**
乗り換えに便利なエリアごと、乗車回数に応じた料金システムを導入。LRT専用線は、LRT専用線に乗って通勤する友達と一緒に楽しむ。
- 安全・高層**
最新型車両を採用し、加減速と緊急時に備わった安全システムを実現。LRT専用線は、LRT専用線に乗って通勤する友達と一緒に楽しむ。
- パリアフリー**
乗降者がスムーズに乗降できる。LRT専用線は、LRT専用線に乗って通勤する友達と一緒に楽しむ。
- 定時・高頻度運行**
LRT専用線と専用線専用車両を組み合わせ、24時間運行。LRT専用線は、LRT専用線に乗って通勤する友達と一緒に楽しむ。

図 3-3 「万国津梁の島 - 新しい沖繩の実現」 提案内容 (3/4)

自然と共生する 亜熱帯庭園都市を育む

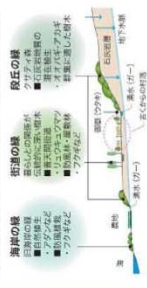
自然の生命力や循環のしくみを積極的に取り入れ、
亜熱帯の自然と、人々の生活を融合。
庭園のような景観をもつ低炭素都市を創出します。



沖繩の亜熱帯庭園都市を実現する3大要素

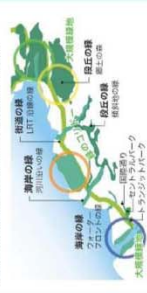
郷土の緑の再生

地域特性を生かした緑の再生により、沖縄ならではの豊かな景観(グリーン・シティ)を創出します。



緑のネットワークの形成

基地部地や周辺市街地を結ぶインフラネットワークの構築により、防災力を備えた先進的なスマートシティを実現し、自立性の向上と低炭素化を推進します。



都市間を結ぶインフラネットワーク

基地部地や周辺市街地を結ぶインフラネットワークの構築により、防災力を備えた先進的なスマートシティを実現し、自立性の向上と低炭素化を推進します。



市街地再編で創出する緑の環境ネットワーク—那覇都心

「沖繩ゲートシティ」の整備と「緑の都市軸」の延伸による
ウォーターフロントに開かれた新しい那覇中心市街地の再編



環境・防災拠点となる セントラルパークの創出

- 行政施設が移転した跡地は、水と緑に潤った緑の空間「セントラルパーク」として整備します。
- 目では捉えにくい敷地の「微地形」を分析し、沖縄の風土や環境を活かした庭園空間とします。
- セントラルパークには、再生可能エネルギーや地域の熱供給センターを整備し、災害時のエネルギー供給機能を備えることで、那覇市の防災性能の向上に寄与します。



市街地再編と「緑の都市軸」の創出

- 国際通りを那覇湾に延伸することで、都心とウォーターフロントを繋ぐ緑の都市軸を形成します。
- 緑の都市軸は、セントラルパークや緑のトランジットパーク(旧那覇バスターミナルとLRTの新しい交通結節点)など緑の拠点をあつなぎます。
- 都市軸としての国際通りは歩行者優先とし、豊かな緑陰空間の無むいでの街路とします。



環境のマネジメント手法 GID制度による環境管理・運営

那覇都心部の特定地域を環境改善地域(Green ID)として指定し、指定地は、地方自治体の環境自主規制制度に基づき建設を審査し、パーク及び周辺地区の緑の創出、環境改善に寄与します。



自然の恵みを活かす「水と緑の庭園都市」—普天間

「緑のコモンスペース」から広がる「グリーンデッキ」と建物群、それらを包む「郷土の森」
開閉に合わせて立体的に緑が増殖する庭園都市(No Net Loss)



水循環の保全

水源森林の再生や溜池により、地下水を涵養し、緑のコリドーを形成することで地下水脈を保全します。



緑の立体的な連続

郷土の森〜グリーンデッキ〜コンモンスペースの順に、丘陵部から海までの連続空間を形成し、生態系の遷移帯(エコトーン)となり得ます。



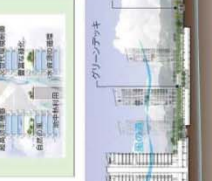
スマートインフラ

次世代社会を支えるスマートインフラを整備し、都市全体でエネルギーの最適化を図ります。



エコスマート建物群

立地環境に適したパッシブ建築手法と先進環境配慮技術を導入し、低炭素、自立的なエコスマート建物群を創出します。



郷土の森

郷土の森(旧那覇市ヨリパーク)に伝統的な村落を復元し、地域的な自然・歴史・文化を創出する景観的な公園として整備します。



図3-4 「万国津梁の島 — 新しい沖繩の実現」提案内容(4/4)

②優秀賞_1「“麗しの海の邦”と“まちづくりマネジメント”」

“麗しの海の邦”と“まちづくりマネジメント”

「麗しの海の邦」は美しい海があります。沖繩には美しい海が広がっています。また、昔から美しい海で遊んでいました。また、昔から美しい海で遊んでいました。また、昔から美しい海で遊んでいました。

1. 産業戦略…地域特性×沖縄文化×成長産業により“オール沖縄”の発展をリードします

ブルーゲーターシティ：医療回源と国際交流の場（交流）

医療回源 + 沖縄の医療ブランド + 沖縄の医療・ライフスタイル + 先端医療 + 先端医療 + 先端医療

国際交流 + 観光・文化・情報 + 観光・文化・情報 + 観光・文化・情報

観光・文化・情報 + 観光・文化・情報 + 観光・文化・情報

観光・文化・情報 + 観光・文化・情報 + 観光・文化・情報

「ブルー＆グリーン」で沖縄は世界とつながります

「立地地+基地地+既存市街地」を一体的に再編します

都市像&実現化方策を提案します

2. 実現化手法…「まちまな会社」による事業の早期実現と継続的な価値増進を図り地域と沖縄を豊かにします

準備・事業段階：一体的利用を実現する仕組みとまちづくり財源を創出します

計画段階：2つのまちづくりマネジメント組織を考案します

実行段階：「まちまな会社」の土地一括利用

まちづくりマネジメント組織を考案します

「麗しの海の邦」と“まちづくりマネジメント”

「麗しの海の邦」は美しい海があります。沖繩には美しい海が広がっています。また、昔から美しい海で遊んでいました。また、昔から美しい海で遊んでいました。また、昔から美しい海で遊んでいました。

3. 実現化手法…「まちまな会社」による事業の早期実現と継続的な価値増進を図り地域と沖縄を豊かにします

準備・事業段階：一体的利用を実現する仕組みとまちづくり財源を創出します

計画段階：2つのまちづくりマネジメント組織を考案します

実行段階：「まちまな会社」の土地一括利用

まちづくりマネジメント組織を考案します

図 3-6 「“麗しの海の邦”と“まちづくりマネジメント”」提案内容(1/4)

グリーンファームシティ：アグリビジネスを核とした創造の場（生産）

豊かな地下水資源をもち、大規模なタイモ間に隣接する露天園地を例に、先端技術を活かしたグリーンファームシティを提案します



豊かな地下水資源を守りながら、農業に活用します

- 3つの地下水資源に水質浄化システムを形成
- 農業や観光の需要に応じた水質浄化システムを形成
- 農業生産の中心に農業生産を推進し、周辺エリアを形成
- 農業生産を核とした農業生産の創出



作品監修者名：日本設計十景設計

ブルーゲートシティ：医食同源と国際交流の場（交易）

既設計画が先行しており、埋立地・造成地、既存市街地の一体的利用が望まれる牧野地区を例に、医食同源と国際交流の場であるブルーゲートシティを提案します



水質浄化システムを核とした農業生産の創出

- 水質浄化システムを核とした農業生産の創出
- 水質浄化システムを核とした農業生産の創出

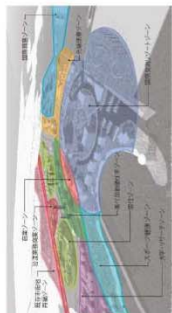


図3-7 「麗しの海の邦」と「まちづくりマネジメント」提案内容(2/4)

ブルーゲートシティ ～牧港補給地区を例に～

ブルーゲートシティは沖縄が北・東アジアにおける交易の中心地、文化の発信地になるためです。この街は沖縄の太陽と海の恵まどりにくい、沖縄に息づく文化に支えられ、人と自然に優しく、交通利便性に優れ、多くの人々を惹きつける魅力をもつ、ヒト・モノ・情報が交差する街となります。特に牧港補給地区は既存の浦添市街地と海との間に位置するため、既に計画が進んでいる埋立地と一体的に計画し、海の魅力をもちつ交流とリゾートの一大拠点を形成します。既存浦添市街地とつながり、海を身近に感じ、海の環境を守り、共存する街となります。

また、「ていで」(体感)の街に相応しく、潜在的な水産加工業の活用や海への眺望、臨海の緑を活かした環境共生型の暮らしの場となります。



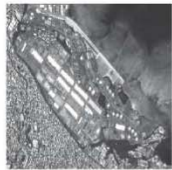
■明後なソーニング



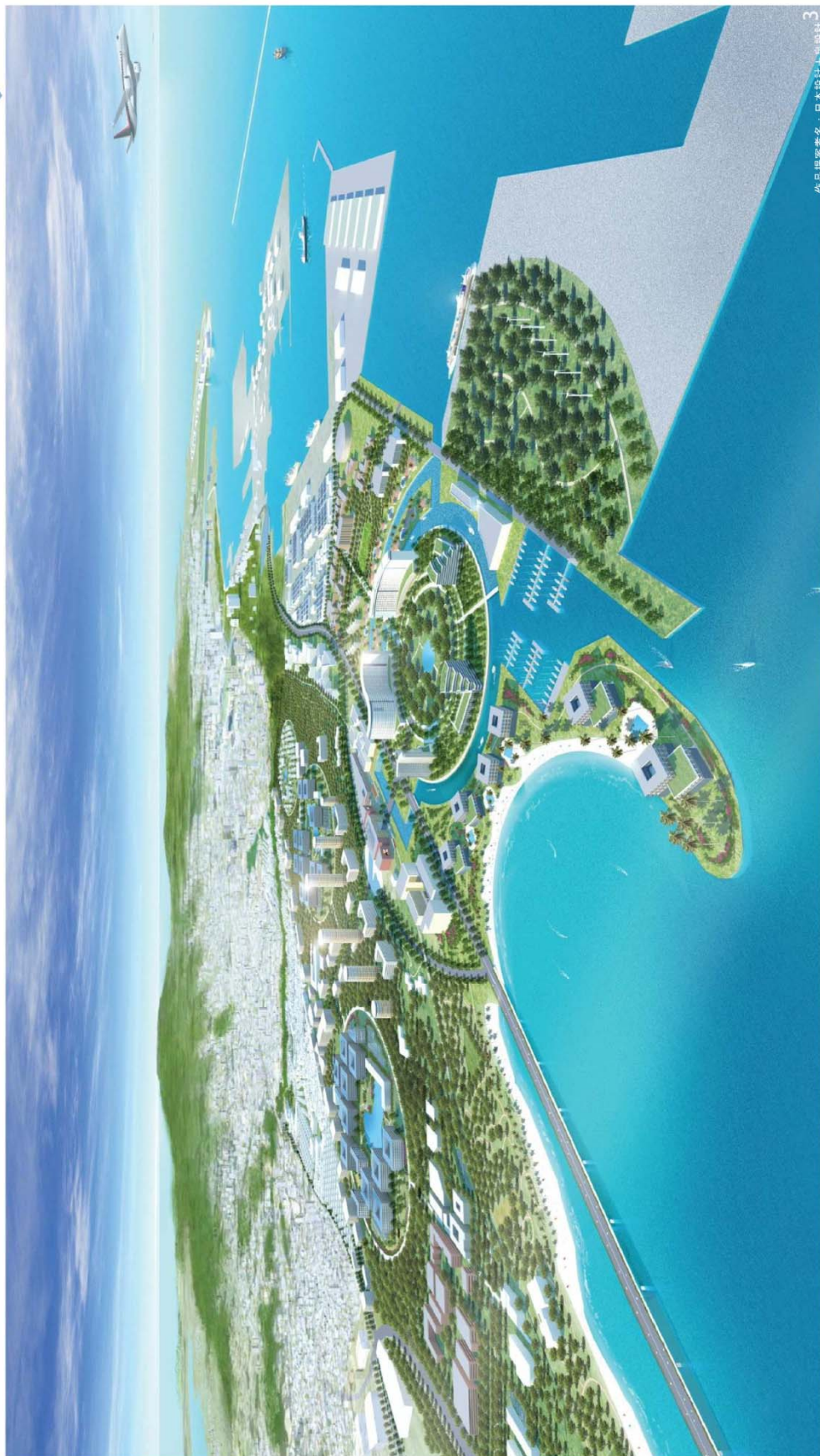
■海と水を引き込む



■空港・浦添市街地との連続



■明後

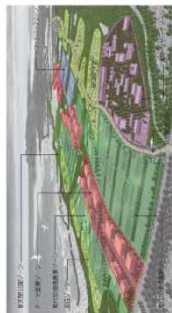


作品題業者名：日本設計+建築社 3

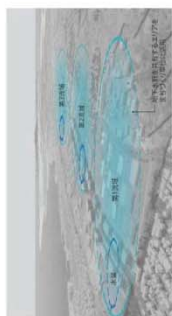
図 3-8 「“麗しの海の邦” と “まちづくりマネジメント”」 提案内容 (3/4)

グリーンファームシティ～普天間飛行場を例に～

グリーンファームシティは、人々の営みの原点にある「農」をテーマに、沖縄の温暖な亜熱帯性の気候風土を活かした新しい産業（中継据点「ドハレー」）をつくるための街です。この街は大地と水の恵をとり入れ、公園と農地が連なる緑豊かな環境の中に農に関連する食品、バイオなどの先端産業と、豊かなコミュニティが息づく居住地、健康滞在施設等をもつ街とします。普天間飛行場では、「わたて」の赤すまちの増産となる3つの地下水場に応じた緑地とまちづくり単位を併称に街をつくります。中間部を横貫する幹線道路沿いに産業機能を配置し、これと関連できる農地をその後背地に設けます。また歴史遺産、コミュニティ構成、環境共生をテーマに、並校街道と集落街区を再生するとともに、かつて海岸沿いの集落に広がっていた海を再生し、市街地のつながりを高めます。



■ 明確なゾーニング



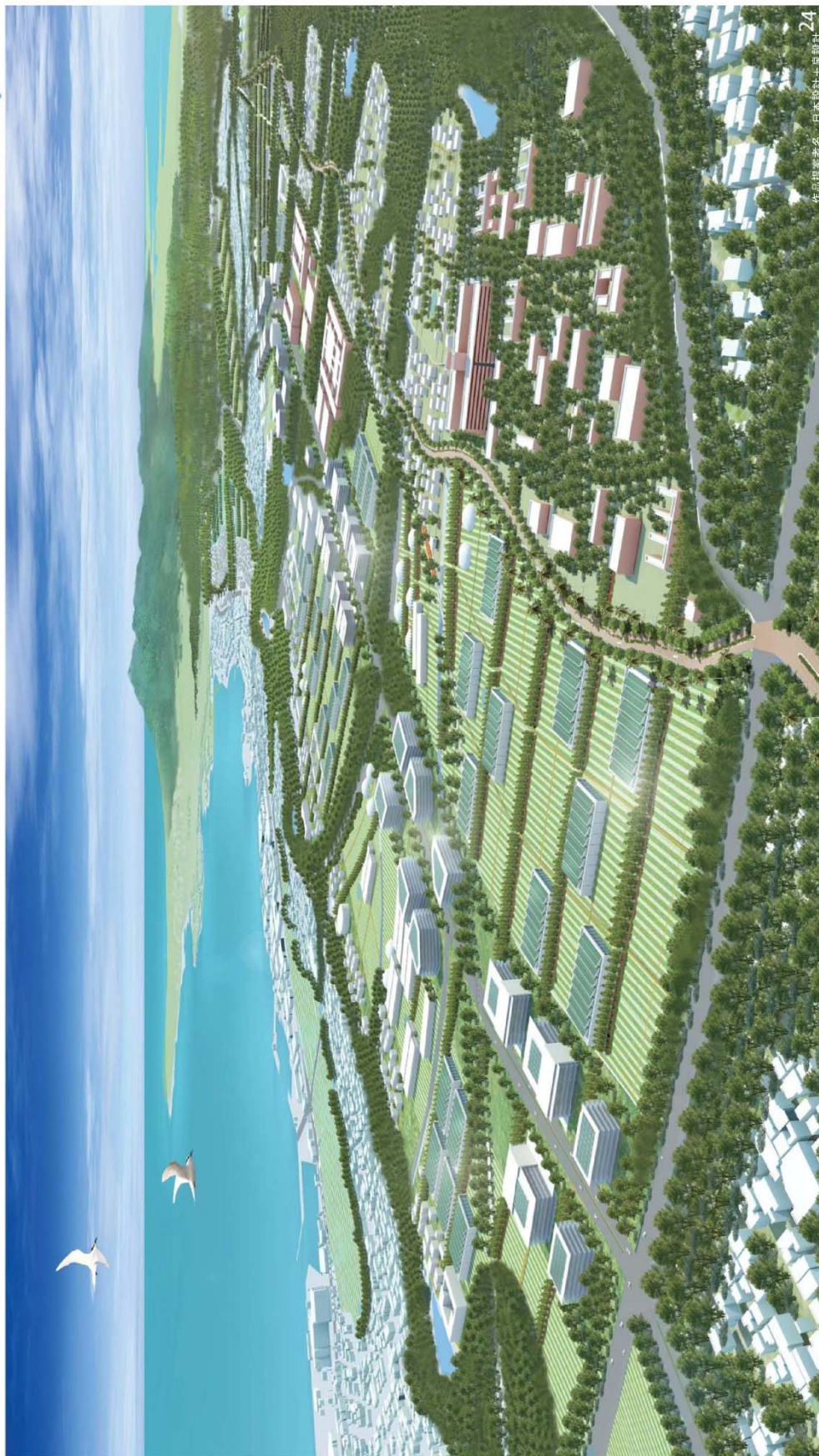
■ 3つの地下水場とまちづくり単位



■ かくれた水みち（地下水場）のネットワークとなる緑の足道



■ 湧出



作品提案者名：日本設計工業設計 24

図 3-9 「麗しの海の^{くに}邦」と「まちづくりマネジメント」提案内容(4/4)

■提案のポイント

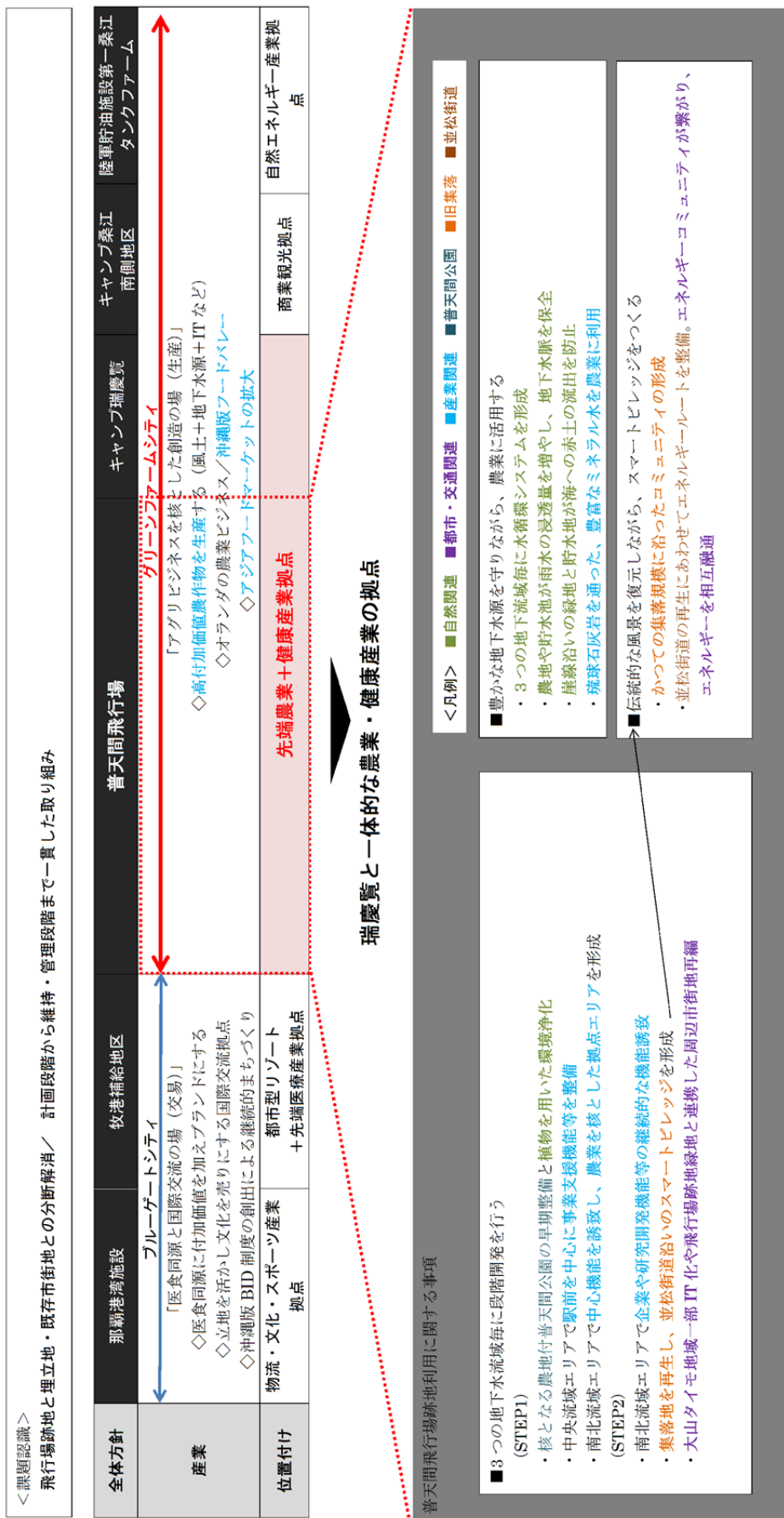


図 3-10 「麗しの海の邦」と「まちづくりマネジメント」提案のポイント